

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
1 『せと未来マップ』をどう描く？ 「みつば小学校」への統合から考える菱野団地の再生について 【質問趣旨】 本市は「安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち」を目指している。菱野団地の小学校統合は、この目標達成と密接に関わる取り組みである。にじの丘学園への小中学校統合後、その校区では人口が増加し、統合と建て替えの成果が一定の評価を受けている。住民バスの導入や広場整備などの施策が進む一方、人口減少が続いている菱野団地において、にじの丘学園の成功体験をもとに、小学校統合が地域再生の要となると期待をされている。(次ページへ続く)	(1) 人口減少・少子高齢化に対する本市の取り組みについて	①本市の人口推移は、瀬戸市第6次総合計画（6次総）開始時の平成29年4月の130,298人から令和7年2月に126,119人と緩やかに減少し、瀬戸市人口ビジョンにおける将来人口推計に対する動向は、推計値を下回る結果となっている。令和6年6月定例会において、「第6次総合計画に基づく各種施策により一定の効果が現れているものの、令和6年には8年ぶりに社会減となった。外国籍の方の社会増については、一時的な居住である可能性も考えられるので、日本国籍の方の社会減が将来的な本市の人口減少につながるおそれがある」と答弁された。現在の状況と今後の見通しを伺う。 ②人口減少・少子高齢化によって引き起こされる本市への影響について、どのような想定をされているか伺う。 ③令和6年6月定例会において、「瀬戸市人口ビジョンにおいて、2035年の人口について施策を講じない場合の推計人口で11万3,166人、施策による最大効果を目指した推計人口で12万1,946人としている」と答弁されたが、最大効果を目指すには年平均500人減で抑えていく必要がある。最大効果を発揮する施策として、令和7年度は何を予定されているか伺う。 ④令和6年6月定例会において、「平成29年と令和6年4月1日現在の人口を比較すると、総人口、年少人口、生産年齢人口のいずれも祖母懷連区、山口連区、菱野連区の順に増加数が大きくなっており、総人口の増加数では、祖母懷連区で1,361人、山口連区で996人、菱野連区で169人となっている。これらは、にじの丘学園の開校や塩草土地区画整理事業、上之山地区の住宅開発など、住宅の供給や居住環境の整備による効果が大きいものと考えている。」と答弁されたが、これから小学校統合が予定されている菱野団地の人口は平成29年と現在を比較した状況と、今後どのように変化すると予測されているか伺う。

(1 ページ)

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。

2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。

3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
さらに、持続的な市政運営のための計画的な財政支出が求められる中、一般会計が前年度比 39 億円増の約 496 億 6 千万円と過去最大となる令和 7 年度の当初予算案が発表された。小中学校への設備投資費などが目立ち、令和 8 年度に開校予定の「みつば小学校」に向けた予算も計上された。学校統合は、教育環境の整備だけでなく、地域の活性化にも影響を与えるため、にじの丘学園の成功事例や課題を十分に分析し、「みつば小学校」に活かすことが重要である。統合を「点」で考えるのではなく、市全体にとって菱野団地再生がどのような役割を果たすべきかを再考し、残された 1 年間で適切なまちづくりが検討されているか質問する。	(2) 公立学校の統廃合から考える公共建築物の適正管理とまちづくりについて	①本市はコンパクトシティの実現を目指し、「公共施設等総合管理計画」に基づいた持続可能な公共サービスの提供のため施設の多機能化や集約化を図り、「適正規模、適正配置」を反映した公立学校の統廃合を進めているという認識に誤りはないか伺う。 ②公共施設等総合管理計画では、本市の公共建築物更新可能保有量は、目標値を約 29 万㎡とし、投資的経費は年平均 31 億円を見込んでいる。令和 6 年 9 月定例会において、「工事費の高騰など、今後、様々な状況の変化によっては、更新可能保有量は変動するものと捉えております。」と答弁されていたが、令和 5、6 年度使用額と令和 7 年度使用予定額を伺い、それを踏まえて現時点で平米数や投資的経費の金額に変更の必要がないか伺う。 ③にじの丘学園統廃合時にかかった総費用と、令和 7 年度みつば小学校整備に関する予算要求額と査定後の予算額との乖離、そして、統合にかかる予想される総費用を伺う。 ④本市は小中学校の適正規模、適正配置の考え方の下、小中学校の統廃合を進めているが、統合予定の「みつば小学校」の今後の児童数の推移予定を伺う。 ⑤にじの丘学園は当初の想定を超える児童数となり校舎の増築が必要となったが、想定を超える状況となった要因と、増築工事にかかる費用を伺う。 ⑥にじの丘学園では原則徒歩通学としながらも、民間バスを利用した通学を行い、開校に合わせバスの増便、バス停の整備、利用児童への運賃の補助、運行経費の補填等を行っている。これまでににかかった費用と、にじの丘学園以外の地域との通学援助の格差について見解を伺う。

(2 ページ)

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS 明朝体、12 ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	(3)「みつば小学校」への統合から考える菱野団地再生計画について	⑦本市は学校区の編成を行う考え方について、令和元年6月定例会において、「地域における学校の役割は、教育だけでなく地域コミュニティの集いの場としても多岐にわたるため、連区単位の構成（一部例外もあり）とし、適正規模、適正配置の視点も鑑みながら検討していく」と示された。令和4年3月定例会において、「児童生徒数の急増への対応としては、校舎の増築などを行い、迅速かつ適切に対応してきた」とし、令和6年3月定例会において、「にじの丘学園学区に集中している児童生徒を分散させる一つの方法として特定区域の見直しが必要ではないか」との指摘に対し、「通学する児童生徒の人数を一時的に調整するために特定区域を見直すという考えはない」と答弁され、これまで増築一択で話が進められてきた。まちづくりを含めた学校区の編成を行っていく必要があると考えるが見解を伺う。 ①本市では菱野団地再生計画を作成し、計画期間の6年が経過したが、現在の進捗状況と課題、将来像を伺う。 ②令和6年6月定例会において、「菱野団地の人口減少の原因としては、高齢世帯が増加する一方で、空き家率が低いため、若い世帯の流入が進まないことが一つの要因」と答弁されたが、居住可能な宅地がない課題を解決しなければ児童数の増加にはつながらないと考えられる。課題解決のために校区内のどこを選定し、宅地不足へどのように対応される予定か伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
		③令和5年6月定例会において、「菱野団地再生計画においては、基本方針の一つに、若い世代に住みたいと選ばれる団地づくりが掲げられている。本工事を含めた適正配置の取組においては、若い世代にとって魅力のある、地域と一体となった学校にすることで、この計画が目指す子育て世代人口の社会増などにつなげていく」と答弁されている。適正配置の取組とはどのような考えで学校区編成をし、特定区域における校区外通学についてどのようにされるのか伺う。 ④「みつば小学校」を「若い世代にとって魅力のある、地域と一体となった学校にする」ため、先に統合した「にじの丘学園」でのいくつかの課題を参考に考えるべきである。初めに「通学方法、通学路」について現状の進捗と今後の対応・整備を含めた予定を伺う。 ⑤次に「保護者や住民への説明、地域との関係性の変化」について、現状の進捗と今後の対応を含めた予定を伺う。 ⑥次に「新規備品購入」について、現状の進捗と今後の対応・購入を含めた予定を伺う。 ⑦最後に「跡地活用」について、現状の進捗と今後の対応・整備を含めた予定を伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
		⑧「みつば小学校」の校区は外国籍の方が多数居住され、菱野団地再生計画においても多文化共生の取り組みは遅れている。「みつば小学校」が外国籍の若い世代にとっても魅力のある、地域と一体となった学校になることが重要と考えるが、どのような施策を行う予定か伺う。 ⑨令和6年6月定例会において、「菱野団地において、令和8年度から始まる小中一貫校の開校による若者世帯の流入を期待しつつ、引き続きエリアマネジメント団体への支援を行い、地域のつながりを深めることで住みやすさや満足度を向上させ、定住人口の確保に努めていく」と答弁されたが、令和7年度予算案では令和6年度に971千円予算措置されていた「菱野団地エリアマネジメント団体活動拠点賃貸料」が削除されている。エリアマネジメント団体へ賃料支援を打ち切った政策理由と、エリアマネジメント団体の消滅リスク、今後の計画への影響を伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

2 番	颯田季央 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	(4) 瀬戸口駅周辺の整備が「みつば小学校」と菱野団地再生に与える影響について	①瀬戸口駅の北側一部地域は統合が予定されている原山小学校の校区である。この地域には病院・スーパー・駅と住宅購入のポイントとなる施設が多数あることに加え、市の保有地も存在し居住誘導施策が行いやすい地域となっている。早期に居住誘導を行う計画を作成する必要性について伺う。 ②小項目①に加え、居住地と学校、駅をつなげる交通利便性の向上計画作成が必要と考えられるが、令和7年度予算には計上されていなかった。理由と今後の予定を伺う。 ③瀬戸口駅は都市機能誘導区域に設定されている。乗降者数は市内の愛知環状鉄道駅において2位であるが、平成29年度から減少を続けている。瀬戸口駅周辺地域を住みやすく、利用しやすくすることは、乗降者数の回復、人口減少対策・コンパクトシティ推進にもつながると考えるが見解を伺う。 ④令和6年6月定例会において、瀬戸口駅周辺の整備とバリアフリーに関して、次期将来計画において鉄道事業者と連携しつつ順次検討することを共有した。国土交通省は鉄道駅のバリアフリー化の推進を行う方針を示しており、地方における重点化対象事業として「鉄道駅総合改善事業費補助」の制度があり、令和4年度からバリアフリー基本構想に位置付けられた駅は、国からの補助率が1/3から1/2と引き上げられた。制度利用を含め予算確保に向けた準備を進めているか伺う。 ⑤瀬戸口駅は北側の土地とホーム部分、南側の入口に高低差があるため北側からのアクセスを考慮した動線の設計が求められている。エレベーター設置が進められたとしても、南側からの進入しかできなければバリアフリーの考え方からはかけ離れた整備となる。エレベーター設置だけではなく北側からの進入や駅空間の生活支援施設も含め面としてとらえた整備が必要と考えられるが見解を伺う。

備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。